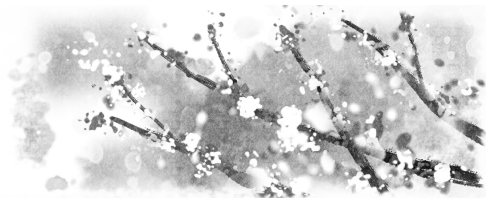
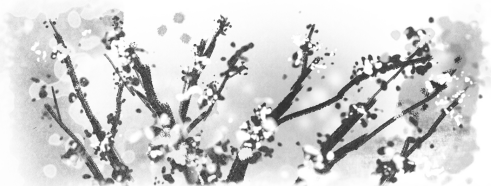


二月のひかり

宮坂静生



寒暁の飛驒山脈は大香爐
真裸の暁の雪嶺天に据ゑ
開けたてにひびく寒中兜太以後
夕映の吹きのかされし春隣
縄文の世のはじまりの氷柱群
姨捨の氷柱籠めなる聖窟
枯谷にバケツ伏せられにつちもさつちも
寒紅梅子どもを連れて寺廻る
若き日、デイズニールランドを知らず
金子兜太に新たな一年が始まる
土偶より血を引く兜太一周忌
鉦やたら叩き兜太の一周忌
斑雪山少年僧の透体に
車輛二月おほかみ描かれ秩父線



秩父野の二月ひかりの透りたる
深川はむかし深濱
多喜二忌の空は萌黄へ枷を解き
ネクタイの珠のしまらず風生忌
轟音と沈黙の地下冴返る
紅梅に雀深濱神輿倉
紅梅は幹に埋没して咲くよ
權も櫓も水切りの腕芽張りどき
葦牙や大日如来知拳印
霾や吉祥天の宝珠にも
もがり笛死後も働きづめの父
父母の子であるかぎり虎落笛
われは
がらくたになりかけ日脚伸びにけり
雪解靄唯々駄句駄句と無尽蔵
諸神のつどふ雪嶺春曙